

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ひまわりネットワーク株式会社 新館	階数	地下0階 地上3階
建設地	無指定区域、市街化調整区域、法22	構造	S造
用途地域	愛知県豊田市若草町3丁目32-12	平均居住人員	100 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年12月 予定	評価の実施日	2020年1月20日
敷地面積	5,645 m ²	作成者	小久保 貴文
建築面積	887 m ²	確認日	2020年1月21日
延床面積	2,438 m ²	確認者	高桑 雄



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂温暖化影響チャート

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	92%
③上記+②以外の	92%
④上記+	92%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 4.0

Q1 室内環境: 3.6

Q3 室外環境 (敷地内): 2.6

LR1 エネルギー: 3.6

LR2 資源・マテリアル: 3.9

LR3 敷地外環境: 3.2

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.6

音環境	3.6
温熱環境	3.1
光・視環境	3.9
空気質環境	4.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.0

機能性	3.9
耐用性	4.1
対応性	3.9

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.6

生物環境	1.0
まちなみ	4.0
地域性	2.5

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.6

建物外皮の	5.0
自然エネ	4.0
設備システ	2.5
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.9

水資源	4.2
非再生材料の	3.8
汚染物質	4.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.2

地球温暖化	3.3
地域環境	3.1
周辺環境	3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.0 %	建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)	0.0 %				
建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.8</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート	実施設計段階	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部				建物全体・共用部		全体
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q1 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
屋外からの騒音はガラスにより遮断、室内設備の代表点騒音値が				0.4	3.6	0.15	-	-	-	3.4
1.2 遮音				3.0	4.0	0.40	-	-	-	3.6
1 開口部遮音性能				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
2 外壁遮音性能				-	3.0	0.60	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.40	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	-	-	-	-	-
1.3 吸音				-	3.0	-	-	-	-	-
天井:岩綿吸音板、床:タイルカーペット				-	4.0	0.20	-	-	-	-
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温				0.3	3.1	0.35	-	-	-	3.1
2 外皮性能				0.5	3.3	0.50	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性				3.0	3.0	0.38	-	-	-	-
ゾーン別に冷暖房の系統を分けて計画				3.0	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 湿度制御				3.0	4.0	0.38	-	-	-	-
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
				3.0	3.0	0.30	-	-	-	-
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率				0.2	3.9	0.25	-	-	-	3.9
2 方位別開口				0.3	4.6	0.30	-	-	-	-
3 昼光利用設備				3.0	5.0	0.60	-	-	-	-
屋光率が高くなるように南北に横連窓を設置				-	-	-	-	-	-	-
ライトシェルフを設置				3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
3.2 グレア対策										
1 昼光制御				0.3	4.0	0.30	-	-	-	-
明るさセンサにて昼光制御を実施				3.0	4.0	1.00	-	-	-	-
3.3 照度										
全般照明方式で500lx以上を確保				3.0	4.0	0.15	-	-	-	-
3.4 照明制御										
				3.0	3.0	0.25	-	-	-	-
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質				0.2	4.0	0.25	-	-	-	4.0
F☆☆☆☆を確保				0.5	4.0	0.50	-	-	-	-
4.2 換気										
1 換気量				3.0	4.0	1.00	-	-	-	4.0
建築基準法、建築物衛生法の基準換気量の1.2倍以上を確保				0.3	3.6	0.30	-	-	-	-
2 自然換気性能				3.0	4.0	0.33	-	-	-	-
災害時に配慮し、可能な限り、自然換気性能を確保				3.0	4.0	0.33	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視				0.2	4.5	0.20	-	-	-	-
手動による計測とフィルター交換等のマニュアルを整備				3.0	4.0	0.50	-	-	-	-
2 喫煙の制御				3.0	5.0	0.50	-	-	-	-
室内に喫煙所を設けない方針				3.0	5.0	0.50	-	-	-	-
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性				0.4	3.9	0.40	-	-	-	3.9
2 高度情報通信設備対応				0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
3 バリアフリー計画				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
バリアフリー計画				3.0	3.0	0.33	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)				0.3	4.6	0.30	-	-	-	-
フレキシビリティを考慮しながら、内装・仕子の整合を計画				3.0	4.0	0.33	-	-	-	-
働き方改革を考慮し、充実したスペースを確保				3.0	5.0	0.33	-	-	-	4.0
インテリア計画・維持管理を踏まえた意匠・設備が整合したデザイン				3.0	5.0	0.33	-	-	-	-
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計				0.3	4.5	0.30	-	-	-	-
美しく歳月を重ねることができる素材選定				3.0	5.0	0.50	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保				-	4.0	0.50	-	-	-	-
維持管理に配慮した設備機能を付与				-	4.0	0.50	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				0.3	4.1	0.31	-	-	-	4.1
2 免震・制震・制振性能				0.4	4.6	0.48	-	-	-	-
災害時にも使用できる耐震性能の実現に配慮				3.0	5.0	0.80	-	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	3.0	0.20	-	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数				0.3	3.3	0.33	-	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.09	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	5.0	0.15	-	-	-	-
給水管はSGP-VB.VD、排水管(雑排水、汚水)は耐火二層管とする				-	3.0	0.23	-	-	-	-
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備				0.1	4.6	0.19	-	-	-	-
①、③、④を実施				3.0	5.0	0.20	-	-	-	-
2 給排水・衛生設備				3.0	5.0	0.20	-	-	-	-
①、③、⑤、⑦を実施				3.0	5.0	0.20	-	-	-	-
3 電気設備				3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
①、②、④を実施				3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
4 機械・配管支持方法				3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
重要設備の設計震度を1.5以上で計画				3.0	4.0	0.20	-	-	-	-
5 通信・情報設備				3.0	5.0	0.20	-	-	-	-
③、④、⑤、⑥を実施				3.0	5.0	0.20	-	-	-	-

3 対応性・更新性				0.2	3.9	0.29		-	-	3.9	
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31		-	-		
1	階高のゆとり		日影制限中、可能な限り階高を確保	-	5.0	0.60		4.0	-		
2	空間の形状・自由さ		フレキシビリティに配慮	3.0	4.0	0.40		3.0	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-		
3.3 設備の更新性				0.3	4.2	0.38			-		
1	空調配管の更新性	②	配管はビット・PS内を通っており更改時に構造部材を痛めず修繕可 更改を見込み、EPS内のケーブルラックに将来用スペースを確保し 更改を見込み、EPS内のケーブルラックに将来用スペースを確保し 屋外もしくは屋上への設置となっており、搬入が容易である 空調機は予備スペース、受変電は発電機により建物機能を維持し	-	3.0	0.17			-		
2	給排水管の更新性			3.0	4.0	0.17			-		
3	電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11			-		
4	通信配線の更新性			3.0	5.0	0.11			-		
5	設備機器の更新性			3.0	5.0	0.22			-		
6	バックアップスペースの確保			3.0	4.0	0.22			-		
Q3 室外環境(敷地内)				-	-	0.30		-	-	2.6	
1 生物環境の保全と創出		独自③			1.0	0.30		-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	南側に地域の人々が訪れることが可能なイベント広場を設置		4.0	0.40		-	-	4.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	-	2.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50		-	-		
3.2 敷地内温暖環境の向上				-	3.0	0.50		-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										3.6	
LR1 エネルギー						0.40		-	-	3.6	
1 建物外皮の熱負荷抑制			Low-Eペアガラス、厚めの断熱材で外皮性能を確保	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用			ライトシェルフを設置	3.0	4.0	0.20		-	-	4.0	
3 設備システムの高効率化				3.0	2.5	0.30		-	-	2.5	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-		
4.1	モニタリング		エネルギー消費量を確認し、傾向と対策に配慮	3.0	3.0	0.50		-	-		
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-		
集合住宅の評価					-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング				-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-		-	-		
LR2 資源・マテリアル						0.30		-	-	3.9	
1 水資源保護				0.1	4.2	0.15		-	-	4.2	
1.1 節水			節水型便器を使用	3.0	4.0	0.40		-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	4.3	0.60		-	-		
1	雨水利用システム導入の有無		導入(雨水利用率20%以上)	3.0	5.0	0.67		-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63		-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07		-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24		-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20		-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	ビニル床材	3.0	5.0	0.20		-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05		-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	可能な限り、部材の再利用可能性に配慮	3.0	5.0	0.24		-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	4.3	0.22		-	-	4.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質の徹底排除	3.0	5.0	0.32		-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68		-	-		
1	消火剤		有害物質の徹底排除	-	-	-		-	-		
2	発泡剤(断熱材等)			-	5.0	0.50		-	-		
3	冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-		
LR3 敷地外環境						0.30		-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮		①	配慮した結果、一般的なレベルに着地		3.3	0.33		-	-	3.3	
2 地域環境への配慮				0.3	3.1	0.33		-	-	3.1	
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を使用していない		5.0	0.25		-	-		
2.2 温暖環境悪化の改善					2.0	0.50		-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25		-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25		-	-		
2	汚水処理負荷抑制	独自			3.0	0.25		-	-		
3	交通負荷抑制	独自	地域特性に考慮し、駐車場・駐輪場を充実した計画		5.0	0.25		-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制				3.0	0.25		-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33		-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-		
1	騒音	独自			3.0	1.00		-	-		
2	振動	独自			-	-		-	-		
3	悪臭				-	-		-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40		-	-		
1	風害の抑制				3.0	0.70		-	-		
2	砂塵の抑制				1.0	-		-	-		
3	日照障害の抑制				3.0	0.30		-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20		-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックリストの過半を満たしている		5.0	0.70		-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30		-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

ひまわりネットワーク株式会社 新館

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.8
Q2-2	耐震性・信頼性	4.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域住民に親しまれる新たな交流の場を創出 2.機能性が高く、社員の生産性が上がるオフィス空間 3.積極的に省エネ施策を盛り込むことで、快適なオフィス環境を実現 4.TV局としての高いBCP性能を策定し、非常災害時の際にも地域に対しての「情報」を途絶えさせない
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>積極的に省エネ施策を盛り込むことで、快適なオフィス環境を実現。ライトシェルフで、自然採光と日射遮蔽を効率的に行い、断熱材厚を多めにし、空調負荷の軽減を図る。開口部にはLow-Eペアガラスを採用し貫流熱を抑制することで日射遮蔽を行う。ペリメーターゾーンを意識した空調方式とすることで居住空間の快適性を確保。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>機能性が高く、社員の生産性が上がるオフィス空間。事務室は自由度の高い無柱空間とし、様々なレイアウトに対応。複数の会議室、応接室を設けることでミーティングスペースの充実。自動扉の設置、多目的トイレの充実により将来的な雇用にも対応。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>シンボリックな大庇を設けつつも、外壁の色彩を分けることで、大きな建物ボリュームが街並みと調和するよう配慮した。また緑化は少ないものの、広大なイベント広場を設けることで地域住民の憩いの場所となるように配慮した計画。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外皮の熱負荷を断熱材厚・Low-Eペアガラスで貫流熱を抑制。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>雨水利用率を可能な限り向上させた計画。建築材料も環境配慮を可能な限り行う計画。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>騒音・振動に配慮すると共に、浄化槽設置位置を近隣に影響が最も少ない位置に配置し、臭気に配慮。またトイレ排気・通気を屋上開放とし、臭気に配慮。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>